

【都道府県用中間報告書様式】

都道府県番号	10
都道府県名	群馬県

学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
群馬県学力向上推進地域	344校 (19校)	178校 (12校)	522校 (31校)

学力向上推進協議会(地区別協議会)の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
中部地区協議会 (前橋市、伊勢崎市、 渋川市、北橋村、 赤城村、富士見村、 大胡町、粕川村、 宮城村、子持村、 小野上村、 伊香保町、榛東村、 吉岡町、赤堀町、 東村、境町、 玉村町)	98校 (4校)	47校 (2校)	145校 (6校)
西部地区協議会 (高崎市、藤岡市、 富岡市、安中市、 榛名町、箕郷町、 倉淵村、群馬町、 新町、鬼石町、 吉井町、神流町、 上野村、妙義町、 下仁田町、南牧村、 甘楽町、松井田町)	111校 (7校)	53校 (3校)	164校 (10校)
吾妻地区協議会 (中之条町、東村、 吾妻町、長野原町、 嬭恋村、草津町、 六合村、高山村)	23校 (2校)	14校 (2校)	37校 (4校)

利根・沼田地区協議会 (沼田市、白沢村、利根村、片品村、川場村、月夜野町、水上町、新治村、昭和村)	30校 (3校)	16校 (3校)	46校 (6校)
東部地区協議会(桐生市、太田市、館林市、新里村、黒保根村、東村、尾島町、新田町、藪塚本町、笠懸町大間々町、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町)	82校 (3校)	48校 (2校)	130校 (5校)

#### 都道府県教育委員会としての支援策

<p>(1) 地区別協議会に対して  年3回、学力向上フロンティア事業推進協議会を実施し、各地区協議会の研究成果や実践研究推進上の諸課題について協議を行った。  各教育事務所単位で実施される地区協議会に、県教育委員会学校指導課指導主事及び各教育事務所指導主事が出席し、事業の推進についての指導助言を行った。  各地区協議会の成果の普及方法や授業公開の実施の在り方について指導・助言を行った。</p> <p>(2) 域内の各小・中学校に対して(含：学力向上フロンティアスクール)に対して  全小・中学校に対して  「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」に関する群馬県教育委員会の総合的施策を盛り込んだ冊子「群馬は、こうします! ~3つの総合的施策」(H15.9)を作成し、全小中学校の教職員に配布し、その趣旨の徹底に努めた。  群馬県教育課程実施状況調査(H14.6及びH15.2実施)の結果を分析し、教科ごとの課題と、課題に対する授業改善策を取りまとめた「小・中学校における授業改善のポイント」(H15.10)を作成し、全小・中学校に配布して積極的な授業の工夫・改善を促した。  群馬県教育課程研究協議会(H15.7~8)を全小・中学校の校長、教頭、教諭を対象に実施し、「基礎・基本の確実な定着を図る指導と評価の在り方」、「教育課程実施状況調査の結果と今後の指導の在り方」について講義を行うとともに、各教科等にかかわる研究協議を行った。  群馬県学力向上研究協議会(H16.2)を全小・中学校の教務主任を対象に実施し、「当面の教育課程及び指導の充実・改善方策」、「教育課程の編成・実施・評価」、「確かな学力の向上を図る指導と評価の充実」、「群馬県学校評価システム」について講義を行うとともに、「確かな学力の向上に向けた自校の取組」について研究協議を行った。  また、講義の中で、フロンティアスクールの成果と今後の取組について説明し、県内の全小・中学校できめ細かな指導を行う上で役立てるようにした。</p>
---

フロンティアスクールに対して

年3回、学力向上フロンティア事業推進協議会を実施し、文部科学省初等中等教育局教育課程課長補佐から「個に応じたきめ細かな指導の充実」について講義をいただくとともに、各フロンティアスクールの教材開発の在り方、きめ細かな指導にかかわる研究成果等について協議を行い、今後の研究に役立てるようにした。

フロンティアティーチャー研修会を実施し、フロンティアティーチャーの役割について講義を行うとともに、フロンティアスクールの成果の普及について協議を行った。

フロンティアスクールでは公開授業研究会を行うよう働きかけるとともに公開授業研究会の実施にあたり、学校指導課及び当該の教育事務所から指導主事等が訪問し、具体的な授業改善に係る指導助言を行った。その際、地区内の学校に対しては、積極的に参加するよう指導した。

(3) 実践研究の成果の普及の方策の構築

フロンティアスクールにおけるWebページの開設と掲載内容について指導助言を行った。

フロンティアスクール間でネットワークを構築し、開発した教材や意識調査等について情報交換を行い、その成果等を県のWebページに掲載すべく準備を進めている。

群馬県の学力向上推進協議会として「学力向上フロンティアだより」を発行し、全小・中学校の「確かな学力」の向上に向け参考となる資料を提供した。

学力把握のための都道府県としての取組について

教育課程実施状況調査を実施

(小学校)

平成14年5月 小学校6年生 約2,000名を対象に実施。

(中学校)

平成15年2月 中学校2年生 約2,000名を対象に実施

(小・中学校)

・平成16年5月実施予定

・小学校6年生及び中学校3年生全員を対象

・小学校(国語、社会、算数、理科)

・中学校(国語、社会、数学、理科、英語)

分析結果をもとに、学力向上推進委員会を開催し、授業改善のための具体策を策定し、県内全小・中学校に配布する。

「ぐんま学校教育リサーチプロジェクト」による意識調査の実施

・平成16年6月実施予定

・公立小・中・高等学校の児童生徒、保護者、校長、教員、県民を対象

・意識調査の結果を踏まえ、今後の諸施策に活かす。

フロンティアスクールを対象とした意識調査を実施

・平成15年9月実施

・フロンティアスクール31校の児童生徒、教員を対象

・調査結果をもとに群馬県として分析し、学力向上推進協議会や学力向上研究協議会等の場で報告し、各学校で今後の指導に役立てるよう指導した。

## 学力向上推進協議会について

### (1) 開催時期及び参加対象

第1回学力向上推進協議会	平成15年5月実施
フロンティアスクール校長、指導主事、管理主事、フロンティアスクールを有する市町村担当者	合計65名
フロンティアティーチャー研修会	平成15年6月実施
フロンティアティーチャー、指導主事	合計43名
第2回学力向上推進協議会	平成15年8月実施
フロンティアスクール校長等、指導主事、	合計41名
第3回学力向上推進協議会	平成16年1月実施
フロンティアスクール校長等、指導主事、	合計45名

### (2) 協議会の主な内容等

#### 〔目的〕

児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るために実施される、「学力向上フロンティア事業」の内容の充実及び円滑な実施と、各フロンティアスクールの実践研究成果の県内全域への普及に関する方法等について研究協議を行う。

#### 第1回学力向上推進協議会

- ・講義「個に応じたきめ細かな指導の充実に向けて」  
講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 課長補佐
- ・分散会

協議題「学力向上フロンティア事業 2年目に向けての取組について」

#### フロンティアティーチャー研修会

- ・講義「フロンティアティーチャーの役割について」
- ・協議「フロンティアスクールにおける成果等の普及について」

#### 第2回学力向上推進協議会

- ・説明・協議「個に応じた指導のための教材開発とその活用について」

#### 第3回学力向上推進協議会

- ・説明「フロンティアスクールにおける意識調査の結果について」
- ・説明「学力向上フロンティアだより」について
- ・協議「個に応じた指導の具体的な成果と今後の課題」

#### 〔協議会の中で報告された成果や課題〕

##### 個に応じたきめ細かな指導

習熟の程度に応じた指導や少人数指導の実施にあたっては、校内の指導体制を整えるとともに、保護者への説明を行い、理解を求めることが大切である。

現状では、算数、数学、英語で少人数によるコース別指導を行っている学校が多いが、点が線、線が面になるように、きめ細かな指導という考えのもと、全教科において教師一人一人が実践することが大切である。

少人数によるコース別学習のコース選択においては、子どもや親の考えも尊重する必要がある。例えば、コースを決める際、レディネステストを行い、その結果について親子で相談してコースを決めるなどの取組が必要である。

指導形態について教科の特性や教科内の領域に応じ、TT、少人数指導、習熟の程度に応じた指導を行うことが大切である。また、単元のどの段階で、どのような指導形態をとることが有効なのかを研究していく必要がある。

個に応じたきめ細かな指導を追求しようとする、教師と子どもとの1対1の対応になる傾向がある。教科や単元によっては、子供間での学び合いの時間や場を確保することが必要である。

少人数指導の推進にあたり、週時程表に教師の打合せ時間を設定することで、よりきめ細かな指導が可能である。

指導にあたり、学習案内となる「シラバス」を作成し、ガイダンスの機能を充実させることで、子どもたちにとって学習の見通しが立てやすくなる。また、見通しに基づいた自己評価も可能になる。

小学校における教科担任制について

教科担任制について、第5・6学年の国語を除く全教科で実施している実践例がある。教師の専門性を生かすことができ、効果が上がっている。

具体的な実践にあたっては、コースをいくつかに分けての指導や単元の導入部分でTTを取り入れるなど、指導体制とのかかわりをもたせることで、より効果が上がる。

教材開発の実践例

市町村単位での教材作成研究会において、算数の学習プリントなどを作成し、各学校で活用している。教材の共同作成という意味で、個人の負担は少なくなる。

コース別学習において、各コースの子どもの実態に応じた学習プリントを作成し活用している。

子どもたちが学習の楽しさを実感できるよう、ゲーム的要素を取り入れたトランプを作成し、活用している。

TTや少人数指導にかかわり、子どもたちの学習状況が分かる「打ち合わせプリント」を活用し、教師間での情報交換を図っている。

習熟の程度に応じた指導において、補充的な学習での「繰り返しプリント」とともに、発展的学習に取り組むための学習プリントを作成し、授業に生かしている。

指導と評価の工夫・改善

子どもたちを対象に、「学習に関するアンケート」を実施し、その結果をもとに指導方法等の改善を図ることも大切である。

また、アンケートや意識調査と観点別学力検査等との関連性を検討し、指導に生かすよう努めていく必要がある。

日常の授業において、子ども自ら、その時間を振り返るという自己評価を取り入れることで、次の学習への意欲につながる。

評価にかかわる課題として、日常の授業での「学習意欲」を、いかに客観的に評価できるかがあげられている。（「チェックシート」の活用を図っている実践例がある）

1単位時間ごとの評価項目を記入した「補助簿」を作成し、記入事項について授業後に検討し、次時の指導に生かしている。

子どもたちの達成状況を把握するために、「座席表」や「振り返りカード」を活用することで、よりきめ細かな指導につなげることができる。また、単元末の観点別評価等は、信頼性を高める上で、複数の教師でみるのが大切である。

単元ごとの指導計画及び評価計画を作成し活用を図るとともに、1単位時間を中心とした評価項目を設定し、単元指導計画等の充実を図ることが求められる。

外部人材の効果的な活用

地域の人材を学習ボランティアやゲストティーチャーとして授業に活用している。子どもにとっては、担任の先生以外の方が見守ってくれているという意識がある。

スクールボランティアというかたちで、保護者が各学級2～3名程度、指導補助として参加してもらっている。子どもの個人情報等の守秘義務については、学校側から説明し、理解を得ることが重要である。

成果の普及

市町村単位での教科部会や学力向上研究協議会等を実施し、普及に努めてい

る。

フロンティアティーチャー相互のネットワークを組み、情報交換等に努め、普及に生かしている。

フロンティアスクールにおける公開授業・授業研究会を実施し、その成果を各地域の学校に広げるよう努めている。

また、校内での授業公開を実施することで、教職員間での共通理解を図ることができる。

#### 実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

##### 〔事業評価の実施方法・内容〕

各フロンティアスクールへの訪問指導により、実践研究の進捗状況や成果を把握し、適宜評価を行うとともに指導を行う。

各フロンティアスクールの研究成果について、実践事例を中心に毎年度末に報告させ、その取組を評価するとともに、特色ある取組について域内に広める。

学力向上フロンティア事業推進協議会及び各地区協議会の協議の中で、各フロンティアスクールの取組の状況を報告させ、その成果を評価する。

##### 〔進捗状況（成果及び課題等）〕

について

各教育事務所担当指導主事が研究推進のためにフロンティアスクールを訪問し、事業の趣旨や具体的な施策について助言を行った。また、先進校における習熟の程度に応じた指導や少人数指導の実践事例を提供した。

きめ細かな指導に関する公開授業を数多くのフロンティアスクールで実施し、その際、指導案検討の段階から指導を行った。

これらの指導により、各校とも、少人数指導や習熟の程度に応じた指導体制の工夫だけでなく、教材の工夫、評価方法の工夫など質的な面での工夫・改善が図られるようになった。

しかし、コース選択をより一層適切に行わせるための支援の在り方について課題があり、3年目へ向けて、成果を上げるよう取り組む必要がある。

について

各フロンティアスクールの研究成果の普及方法については、研究報告書の配布、公開授業及び域内各学校の研修主任等の公開授業への参加、各種研究協議会での報告、Webページへの掲載、紀要のダイジェスト版の配布等、各地区協議会ごとに工夫をしている。特に、公開授業については、学習内容や指導方法の課題が明確になり、参観者相互による具体的方策についての協議を行うことで、フロンティアスクールの成果や課題を各学校が共有し、課題解決に向けて域内の全ての学校で取り組もうとする意識がうかがえるようになってきた。

また、特色ある取組(実践例)については、「学力向上フロンティアだより」等でその概要を広く提供するとともに、県主催の各種研究協議会で報告するよう計画していく必要がある。

について

学力向上フロンティア事業推進協議会を年3回実施した。各フロンティアスクールの取組の状況の報告や理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導、地域の人材や各種分野の専門家などの活用、教員の得意分野を生かした教科担任制の導入（小学校）、個に応じた教材開発の在り方、指導に生かす具体的な評価の在り方に視点をあてて協議を行い、それぞれの取組についての成果や課題をまとめることができた。

3年目も今年度と同様に協議会を実施し、成果や課題をまとめていきたい。

## 【地区別協議会における特色ある取組】

### 1 地区内の学校に対する支援策

#### 〔中部地区協議会〕

地区協議会では、各フロンティアスクールの課題だけでなく、各市・郡の委員からも課題を發表してもらい、課題解決に向けた協議を行った。

各フロンティアスクールの研究が円滑に推進するよう、教育事務所と市教育委員会とが連携を密に図り、研究授業等に係る指導を行った。

各地区が定期的開催しているフロンティアティーチャーと教頭を中心とする「担当者連絡会議」にて、研究推進上の課題について協議し、指導助言を行った。

#### 〔西部地区協議会〕

小・中学校ごとに校内研修主任対象の西部地区学力向上研究協議会を学力向上フロンティアスクールを会場に開催し、習熟の程度に応じた指導の授業研究会をもとに、個に応じた指導の授業の具体的なイメージをもち、各学校の授業作りに生かした。

研究推進のための校内研修会に事務所指導主事が講師として参加し、学力向上フロンティア事業の趣旨や具体的な施策について助言を行う。

研究授業開催に向けての指導案検討を行うとともに、訪問指導を各フロンティアスクールごとに1～2回実施した。

夏季休業中に少人数指導に関する校内研修に講師として参加し、習熟度別指導等の先進校における実践事例資料などの提供を行い、研修会を実施した。

大・中規模校、小規模校の少人数指導や習熟度別指導に取り組む方法を示し、その内容の充実を図るための実践事例資料、「個に応じた指導の充実に向けて」を作成し、提供した。

学力向上に向けた指導資料リーフレットを作成し、管内小・中学校の全教職員に配布し、授業改善を推進した。

地区協議会を管内の地区ごとに4ブロックに分け、開催することにより、地区の実態により応じた学力向上の取組が推進されるようにするとともに、地区あがりの取組となるようにした。

#### 〔吾妻地区協議会〕

管内のフロンティアスクールでは、吾妻郡内を対象にした授業研究会を実施した。小学校では算数科の習熟度別授業、中学校では英語科における習熟度別授業の公開であった。

#### 〔利根・沼田地区協議会〕

地区内の教育研究会とも連携し、地区内の学校からも参加の上、地区協議会として「確かな学力を身に付けさせる授業」の講演会を実施した。

「個に応じた指導」や「評価」についての指導資料を Web ページにて提供した。

#### 〔東部地区協議会〕

管内町単位で、外部講師を招いての研修会・講演会を実施した。

管内町単位で、学力向上フロンティア事業対策推進委員会を開催した。

第1回推進委員会（12月・2年次を終えて、3年次のもち方等）

第2回推進委員会（2月・2年次の取組みのダイジェスト版の作成等）

教育事務所指導主事、近隣市町教育委員会指導主事による研究授業のための訪問指導を実施した。（夏季休業中～2月）

事務所指導主事による、学校経営、授業づくり、校内研修、研究授業のための訪問指導を実施した。（年間延べ18回、延べ36人の訪問）

地区協議会委員による公開授業への参加と授業づくりの具体的協議を行った。

### 2 研究成果の普及の方策

#### 〔中部地区協議会〕

研究指定2年目に当たるフロンティアスクールは、研究授業発表会を開催し、

研究成果の発表に努めた。

12月に開催した第2回地区協議会では、各フロンティアスクールの実践発表を行い、その取組や成果を地区協議会の委員を中心に各地区への普及に努めた。

各フロンティアスクールとも研究報告書を作成し、管内の各小・中学校等に配布し、研究成果の普及に努めた。

〔西部地区協議会〕

フロンティアスクールの学力向上へ向けた取組の様子や研究・実践の成果をまとめた広報紙「フロンティアせいぶ」を発行し、地区内の全小・中学校、全職員に年3回配布した。

各フロンティアスクールが習熟の程度に応じた指導に関わる公開授業を1回ずつ開催し、管内教職員が習熟の程度に応じた指導の具体的なイメージをもち、授業づくりに取り組めるようにした。

各フロンティアスクールでは研究の取組を紹介するホームページを作成した。

また、地区協議会でも各フロンティアスクールの取組や地区協議会の取組をまとめ、教育事務所のホームページに掲載し成果の普及に努めた。

校長会長研究協議会、教頭会長研究協議会、教育長会議等でフロンティアスクールの取組や成果を紹介し、各地区での普及を図った。

〔吾妻地区協議会〕

授業研究会では、郡内の各学校へ参加を呼びかけ、町管内では小中の連携を図るようにした。

〔利根・沼田地区協議会〕

市町村単位の教育研究会において、少人数指導や教科担任制の授業公開及び授業研究会を開催し、研修を推進した。

地区全体としての取組や地区内のフロンティアスクールの概要を Web ページで公開した。

〔東部地区協議会〕

市町村単位で2年次の取組みのダイジェスト版を作成し、各学校や関係者に配布した。

公開授業を実施した。

市教育委員会発行の教育情報誌「あゆみ」及び校内研修主任会議やホームページ等を通して成果の普及を図った。

事務所主管による小・中学校長会議・教頭会議での情報提供を行った。

東部管内指導主事会議での情報提供を行った。